

第46号

図書館報



津山工業高等専門学校

ゴーヤーの実

夏になると図書館の玄関脇の壁面がゴーヤーに覆われる。いかにも夏らしい鮮やかな緑で、目も心も和む。いわゆるグリーンカーテンで、環境保全にも貢献していることは言うまでも無い。もちろん世話をして下さっている方々のご苦労もたいへんなもので、心から感謝したい。

図書館のゴーヤーを見るまでは、スーパーで売っている緑色のゴーヤーしか知らなかった私は、ゴーヤーの実が赤く色づくこと、熟した果肉が甘いことを初めて知った。実は何年か前のこと、ある若手の先生と話しをしていて、何かの拍子に彼が、大豆の若い実が枝豆であることを知らないことが分かった。口の悪い私はさんざんコケにして別れたのだが、ゴーヤーの赤い実を知らなかった私も同じようなものだ。

もちろん私がこういうことに特別疎いというわけではないだろう。おそらくこれが現代日本人の、自分が食べているものへの理解の程度なのだ。我々の世代でもそうなのだから、学生諸君はもっとそうだろう。（失礼！）落花生が地面の中にできること、オクラの実が一本ずつ上を向いてなること、トウガンは冬という字がついているのに夏の終わりに穫れること…、いったい、どれだけの学生が知っているだろうか。一昔前の日本人なら、誰でも知っていたことだろうに…。

そんなことを知らなくたって学校の成績には関係ない、知っていたって就職や進学に有利なわけでもない…そりゃあ、そうだ。確かに「へー」ですんでしまう程度の話だ。でもこれは人間として知っていても良いことのような気がする。どんな世の中になっても忘れてはならない人間の原点、と言ったら、ちょっと大げさすぎるだろうか。



図書館長
杉山 明

— CONTENTS —

先生お薦めの本	3
交流会／図書館連携10周年のお知らせ	6
図書委員会からのお願い	7
図書委員活動報告	8
校内読書感想文コンクール	10
ご存知ですか、図書館の使い方	14

先生お薦めの本

先生から学生へのお薦めの本を紹介します



先進科学系 松田 修

『数学の研究をはじめよう (I)』

飯高 茂：著（現代数学社）

数学を愛する数学少年と少女たちのために、数学の自由研究のヒントが書かれた本です。その内容は、 $10^r!$ に0が何個並ぶかを研究する面白さや、自分の誕生日にどんな意味があるかを研究する面白さ、そして完全数の難しさの秘密はどこにあるのかを研究する面白さといったものです。ちなみに著者は私の大学時代の恩師でもあります。

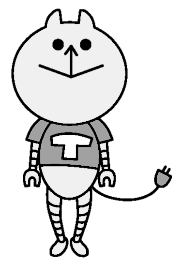
$10^r!$ に0が何個並ぶかのデータをとると、 $10!$ のときは2個、 $(10^2)!$ のときは24個、 $(10^3)!$ のときは249個、 $(10^4)!$ のときは2499個、 $(10^5)!$ のときは24999個、 $(10^6)!$ のときは249998個、 $(10^7)!$ のときは2499999個となっています。いかがでしょう。

著者の誕生日は5月29日です。5と29はともに素数ですが529は素数でない、でも $529=23^2$ となっていて面白さが匂ってきます。そして「 $100p+q$ が平方数になるような素数 p, q は何か」という問題を考えます。その答えは「 $p=5, q=29$ 以外は存在しない」となります。いかがでしょう。ちなみに、「5次以上の代数方程式には解の公式が存在しない」ことを証明した19世紀の若きフランスの数学者エヴァリスト・ガロアは、21歳の決闘前夜（5月29日）に最後の論文を友人に書き残しており、そのため5月29日はガロア祭という重要な日になって

います。

完全数 x とは x の約数の総和 $\sigma(x)$ が $2x$ になる数のことです。例えば6は完全数です。なぜならば6の約数の総和は $\sigma(6)=1+2+3+6=2 \times 6$ となるからです。完全数を小さい順に並べると6, 28, 496, 8128となっていて、これらはどれも $2^a \times p$ (p は素数)と素因数分解されます。かつて大数学者オイラーは、「偶数の完全数は $2^a \times p$ というもののしか存在しない」ことを証明しました。しかし「偶数の完全数は無限に存在するのか」と、「奇数の完全数は存在するのか」という問題は未解決のままです。

この本では、完全数の研究の難しさの理由に、「完全数はエイリアン数という怖い数に関連性がある」ことを挙げ、若い諸君にエイリアン数の研究の重要性を説いています。



機械システム系 野中 摂護

『新猫種大図鑑』

ブルース・フォークル：著（ペットライフ社）

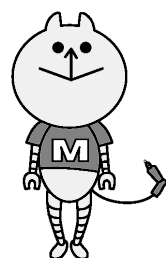
タイトルを見て「何だ、図鑑か」と思われる方

もいるかもしれませんが、この図鑑をなめてはいけません。この新猫種大図鑑は、獣医学博士によって執筆された精度の高いかつ豊富な情報が、非常にわかりやすくそして楽しく読める書籍です。

それこそ生物学関連の論文に書かれているような内容が詰まっています。もちろん「図鑑」というからには大きく絵図や写真を交えていますので非常に楽しく読めます。執筆されたブルース・フォーゲル博士は獣医学の専門であり、生物の生体から生態まで非常に幅広く深い知識を持たれている方です。この書籍のオリジナルは英語ですが、日本語翻訳版もあります。ただし、どちらも既に絶版になっていて、個人では中古で入手するか図書館で借りるしかありません。

私がこの書籍を読んだきっかけは、生体工学に関わる研究を行っているためです。ネコの骨格や筋肉、身体の動かし方、備わっている機能などが、正確な情報としてしかもわかりやすく載っている物はないかと探していた時に知りました。まず目を通したのが、筋骨格に関するページ。たった2ページ程度を眺めただけで、ネコがどのような筋肉を有し、どのように運動するのか、非常に沢山の知識が得られました。もちろん「わかりやすく」そして「楽しく」です。読み出すと夢中になって読み進めていました。次に目を通したのが、ネコの神経系のページです。ここには神経の伝達経路やネコがヒゲを高度なセンサのように扱っている事、さらにはその精度まで解説されていて、こんな内容まで載っているのかと驚きました。この時この図鑑がただの図鑑でない事に気付きました。全体に目をやるとネコの種類や分類はもちろんの事、ネコにまつわる歴史やネコごとの性質、さらにネコの応急手当対応ケースなどなど。まさしく「ネコ」に関するあらゆる情報を網羅しているようでした。しかも単純な内容だけでなく、ひとつひとつに対して結構突っ込んだ内容がなおかつ簡単に記されています。その内容についてさら

に深く調べていきたくするような魅力があります。このような図鑑の魅力は、フォーゲル博士の幅広い知識に由来するのだと思います。博士は他にも「新犬種大図鑑」などいくつかの書籍を執筆されていますので、ネコが他の動物に比べてどのような違いを持っているのか？それを知るためにも他の本も読んでみるのもお勧めです。また「ネコよりイヌ派!」という方は「新犬種大図鑑」から入るのも良いかもしれません。



電気電子システム系 眞鍋 由雄

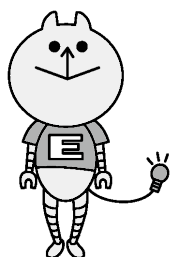
『電子立国 日本の自叙伝』

相田 洋：著（日本放送出版協会）

私は本を大事にしています。大学時代から現在まで手元に置いている本は数百冊を越えています。今回紹介する本は津山に持ってきた本で、相田洋著の「電子立国 日本の自叙伝」です。この本は、1991年NHKスペシャル番組で放映後、NHK出版から出された本です。映像内容および秘話を出版し、全4巻出ました。出版されるたびに待ちに待って購入し一夜で読みました。当時、半導体分野の新プロセスで学位取得時期と重なるので、日本の半導体産業の勃興期の読み物として感慨深いものです。

さて、映像にない場面として三菱電機超LSI研究所での撮影交渉が「はじめに」に掲載されています。この本のテーマである「半導体がいかに生まれてきたかを日米双方の取材で描くと、同時に産業史の深層に横たわる日米両国の国民的な資質、

社会的特質にも目を向けていきたい」でスタートします。新技術を導入する日本の技術者達の取り組みがあります。アメリカの優れた技術者達が、ゲルマニウムからシリコンへすすみ、集積回路へと生み出すところは圧巻です。一方、日本は全く新しい集積回路の技術を日本らしく民生用利用します。70年代の電卓開発競争から生まれた「マイクロプロセッサ」によって、家庭用品から巨大システムまで無限に利用範囲が広がっていく様が描かれています。半導体の勃興していく有様を視覚で表現したものを、言葉を綴って過不足なく文章化しているところが面白く参考になります。また、取材された面々が、J.バーディーン、J.キルビー、R.ノイス、井深大、菊池誠、西澤潤一などのレジェンドです。この本はタイトルのとおり、日本における半導体産業の事始めから最高点に達したまでのストーリーがあります。半導体の発達史、技術者を知る資料です。一方、今我々に置き直すと、学校で学ぶ知識を「日本」らしく応用技術に転化させる模範解答です。さらに、「ものづくり日本」とみた場合、繊維、鉄鋼、造船、自動車、半導体と進んできました。この本が「日本は「ものづくり」で成功したのか」を探す一助となればよいと思います。



情報システム系 寺元 貴幸

『街場の教育論』

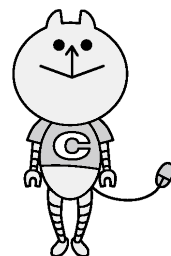
内田 樹：著（ミシマ社）

教育論などという難しそうなテーマがついてい

ますが、勉強の仕方や成績の伸ばし方を説明した本ではありません。学生の皆さんは幼稚園、小学校、中学校、高専と10年以上も学校で「教育」を受けてきたと思います、その「教育」の本質について鋭く切り込んだ本です。いままで「教育」とは一体何なのか真剣に考えた事はあったでしょうか？ テストでいい成績を取るとか、何とか単位を取っていれば良いと考えているのではないのでしょうか？ もし、そのことに少しでも疑問を感じたなら是非この本を読んで見てください。今までとは全く別の視点で「教育」を見ることができるようになります。

また特にこれから就職を考えている人は必読です！ 第9章の「反キャリア教育論」では、就職試験で面接官が何をみて採否を決めるのかが書かれています。「えっ？これホント？」とちょっと驚くと思いますので、是非読んで見てください。これを知らずに就職試験を受けると、学校の成績は良いのになぜか就職の面接で落とされるなんてことにはならないかもしれません。

高専を始め大学等の教育機関は現在大きな改革の波の中にあり、非常に多くの時間と労力を費やして「より良い教育」を目指しています。それはとてもすばらしい事ですが、この本のような視点も必要だと感じてもらえれば幸いです。



—交流会が開催されました—

平成28年5月28日(土)に美作大学で、津山高等学校図書部、美作大学図書館ボランティア、本校図書委員の交流会が開催され、16名（学生12名、教職員4名）が参加し、各校の活動報告や美作大学図書館見学、レクリエーションなどが実施されました。他校の学生と図書を通じてとても有意義な交流を行うことができました。

来年度以降も同様の機会があれば、図書委員になった学生のみなさんはぜひ参加してみてください!!



—図書館連携10周年のお知らせ—

平成20年度に津山工業高等専門学校図書館は、津山市立図書館、美作大学図書館と相互協力協定を結び、それ以後、三図書館が協力することにより、図書館サービスのさらなる向上に取り組んできました。例えば本校図書館で他の図書館の本を取り寄せて借りたり、返却したりすることが可能となっています。また、本校学生が津山市立図書館等のイベントに積極的に参加することで、図書館利用者の方の利用促進や読書活動推進に寄与しており、本校学生にとっても社会貢献活動として貴重な体験を得る機会となっています。

上記に記載している津山高等学校図書部、美作

大学図書館ボランティア、本校図書委員の交流会も連携の一環と言え、毎年 の定例行事として定着しました。他の図書館の活動を学ぶことにより、本校の図書委員活動をさらに充実したものとする目的で行われています。

平成29年度は協定を締結して10周年を迎えることから、これを契機に三図書館の相互協力、発展にいつそう努めていきたいと思ひます。また、講演会・古本市・ビブリオバトルなど記念イベントを実施する予定ですので、興味がある方はぜひ参加してみましよう。

こんな利用者は いやだ！！

～図書委員会からのお願い～

① 図書館で騒がしくしている人！

大きな声でおしゃべりをしてたり、電話をかけていたりすると、他の利用者の迷惑になります。

館内では、静かに、落ち着いて行動しましょう。

② 勉強以外の目的でパソコンの前に居座る人！

図書館のパソコンを勉強以外の目的で使っていると、勉強のためにパソコンを使いたい人が使えなくなってしまいます。

図書館のパソコンは娯楽のために設置しているではありません。勉強以外での使用は自分のパソコンを使いましょう。

③ 後片付けをしていかない人！

勉強をした後に消しカスなどのゴミを放置してはいませんか？

そのまま席を立ってしまうと、あとからそのスペースを使う人たちが困ってしまいます。

後片付けをしてから席を離れるようにしましょう。

マナーを守って気持ちよく図書館を利用しましょう！！



図書委員活動報告

図書委員は、弥生祭等催し物班、図書館利用・読書奨励活動班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています



弥生祭等催し物班



私たち弥生祭等催し物班は、11月5日、11月6日にわたって、葉作りやブックカバー作り、古本市を行いました。

葉作りとブックカバー作りでは、来場者の方々に自由にデザインしていただいたものをこちらで加工し、記念品としてお渡ししました。家族連れの方や、学生同士で来られた方など多くの方に作っていただき、笑顔も個性も溢れる葉作り、ブックカバー作りとなりました。また、古本市では、各学科の先生方から多くの本をいただきました。そして、今年度からの新たな取り組みとして学生からも古本を集めました。その結果、よりバラエティに富んだ本を集めることが出来ました。年齢性別を問わず、来場者の方々がつい足を止めてしまうような古本市となりました。

今年度も、2日間を通じて大変多くの方に来場

していただき、催し物として成功を収めることができたと思います。

最後になりましたが、来場者の方々、古本を提供してくださった先生方や学生の皆様、班員の皆さまにこの場を借りてお礼申し上げます。

(情報工学科4年 片岡 莉菜)

図書館利用・読書奨励活動班

私たち図書館利用・読書奨励活動班は、多くの人に図書館を利用してもらうために活動しています。

今年度は先生方へのアンケートを実施しました。“学科”の体制から“系”の体制に変わったこともあり、先生方全員に属されている系に関するおすすめの本をたくさん紹介していただきました。また、



“図書館利用”ということで、図書館のPCを使って論文サイトへアクセスしてもらおうと、各系の先生方2人ずつにはおすすめの論文も紹介していただきました。

これらをまとめ、弥生祭にて展示を行いました。図書館にある本はその本を展示、ない本や論文については、紹介するポップを班員で手分けをして作成し、展示しました。

図書館には、探してみると面白い本がたくさんありますし、前述のとおり論文も読めます。みなさんぜひご利用ください。

(機械工学科4年 植月 優衣)

ブックハンティング・交流会班



ブックハンティング・交流会班は、図書委員が書店に行き学生に興味がありそうな本や勉強の助けになる本を選ぶ活動や、他校との交流会に参加する活動をしています。

今年は、9月に宮脇書店岡山本店でブックハンティングを行いました。どのような本を選ぶと図書館利用者が本を手にとってもらえるか先生や図書委員で相談して決めました。

ブックハンティングで選ばれた本は、図書館入って右側の棚にコーナーを設けているので、手に取ってもらえると嬉しいです。選ばれた本は専門

的な本が中心ですが、こういう本を置いている図書館はなかなかないと思います。

自分がなにかに興味を持ったとき、図書館に行って最初の一步を踏み出ませんか?

(電子制御工学科4年 丸尾 健太)

図書館報班

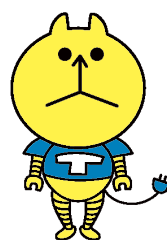


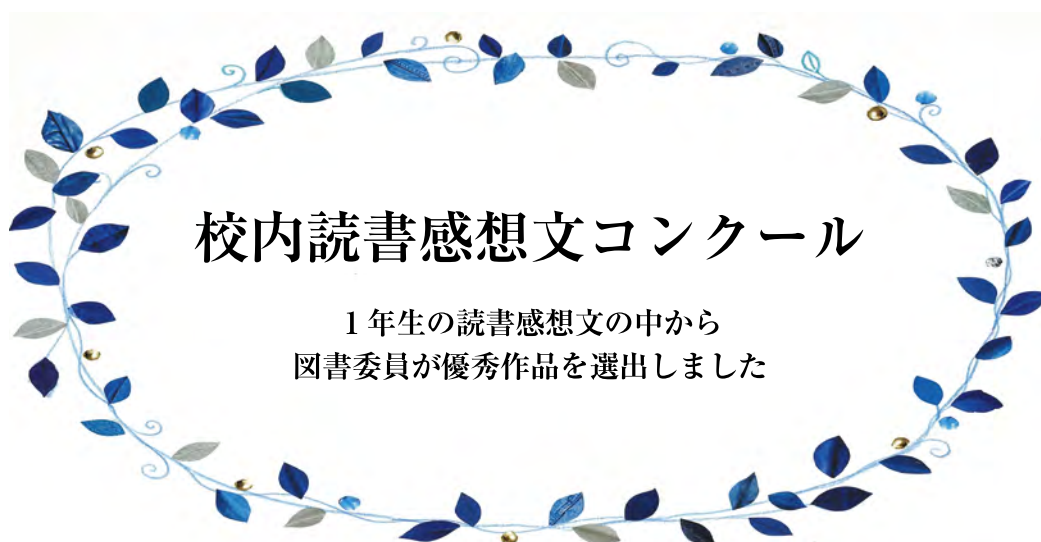
わたしたち図書館報班では、本館報に掲載する内容の決定・原稿執筆の依頼など、少しでも面白い内容になるように班員全員で活動を進めてきました。

新しい企画を考えるのも難しいものでありました。本館報は今年もたくさんの方々の協力のもと、素晴らしいものが完成しました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

今年も様々な企画があるので、よければ手にとって見てください。

(電気電子工学科4年 大嵩 竜一)





第1位 希望荘を読んで

1年2組 河嶋 晃季

私は書店で「希望荘」というタイトルを見たときにとっても興味がわいた。なぜなら本の帯に「その部屋には、絶望が住んでいた。」と書いてあり、その絶望とタイトルの希望という対照的な言葉がストーリーにどのように関係しているか気になったからである。

私も武藤寛二というおじさんのように人生の岐路にたった知人あるいは家族を現実を受け止めて前向きに行動する手助け出来るようになりたい。

この物語には三つの岐路が出てきた。一つ目は希望荘に住んでいた芽野次郎が殺人をし、告白をするまでの二日間である。二つ目は武藤寛二の孫の幹生が万引きをしたときである。三つ目ははなご老人ホームのクリーニングスタッフであった羽崎新太郎が逮捕されて自供したときである。その三つの岐路の傍には武藤寛二がいた。殺人や万引きは許されないことだが武藤寛二には罪を憎み人を憎むべきではないという考えがあったと思う。それがわかるのは彼の「こういうのは憑きものみたいなものなんだよ。どうしようもないんだ。本人もどうしようもないんだよ。」

という言葉である。つまり彼は罪人の置かれた状況、心理を的確に理解していたと言える。そして、その罪から逃げず罪をつぐない前向きに自分の人生を再出発させる勇気をあたえる存在だったと思う。

主人公である杉村三郎の推理の仕方が高専での勉強に役立つと思った。依頼された調査内容の真実を知るための方法が研究の方法に似ていると感じた。第一段階は探偵でいうと依頼を受けること。研究でいうとテーマを決めること。第二段階はどちらとも調査をすること。第三段階は仮説をたてること。第四段階はその仮説を証明するために必要な証拠を集めること。第五段階は仮説の真偽を確かめること。正しくなければ第三段階の仮説をたてることに戻る。最終段階は結果をまとめ報告することである。

今、私が興味があるのは原子力発電にかわる新しい発電の方法でコストが安く、安全かつ効率が良いものは何かということである。答えはまだまだ分からないが杉村三郎の調査方法を参考に、インターネットや本を利用し自分で調べ、専門の人に聞くことで調査をする。次は実際に発電所を訪れ自分の目で確認する。そしてコスト、安全性、効率それぞれを数値化して比較する。あとは杉村三郎と同じように仮説を立て証拠を集めたのちに結果をまとめ報告をする。

この物語の作者宮部みゆきは探偵杉村三郎を通して、現代社会の心の闇を描き出し、その闇から逃げることなく明るく前へ進む方法を示していると思う。

(宮部 みゆき『希望荘』)

第2位 「コーヒーもう一杯」を読んで

1年5組 佐藤 楓希

私がこの作品を選んだ理由は、よく祖母がこの本の著者である重松清の本を図書館から借りてきていたからである。私は祖母が借りてきていたそれらの本を読み、面白いと感じ、学校からこの著者の他の本を借りて読んでいた。

この作品は、東京のアパートで一緒に暮らしている、十九歳の僕と三歳年上の彼女がバザーでコーヒーミルを買う場面から始まっている。彼女はコーヒーミルを見つけて、「どっしりしてるから、いいかも」と言ったが、僕は彼女の発言の意図が理解できずに聞いた。普通であれば、「ちょっと考えればわかること」が僕には、なかなかわかりにくいようである。これは私にも言えることだと思う。私は、想像して考えることが苦手である。そのため、ある物事について、実際に見たり、聞いたり、触れたりなどの経験を積まなければわからないことが多い。だから私は、相手の気持ちを察することや、相手の発する言葉の意図を判断するのが苦手になっている。私の対策としては、人と話す時は言葉をしっかりと聞くだけでなく、表情や声のトーンなど総合的な視点で話を聞くことを心掛けている。

その後二人はアパートで、彼女が決まって飲むマンデリンの豆を挽き、コーヒーを飲む。しかし、僕には昨晚帰省から帰ってきた彼女に、訊きたくても切り出せないことがあった。それは、これから二人がどうしていくのかというものだった。私は、彼女の答えによっては二人が別れてしまうかもしれないために、僕は言い出すことができなかったのだと思う。すると彼女は、僕がうまく話を切り出せない間に就職を実家の方で決めたと言った。その言葉は、二人が別れることを意味した。それから別れるまでの間のある日、僕はコーヒーを飲んでいる時になぜかコーヒーを懐かしんでいる自分に気付いた。すると彼女は、これから懐かしくなることを僕が予感して懐かしく感じているのだと言った。僕は彼女の言葉の意図を理解できないまま、うなずいていた。今の私にも、正直ぴんとこなかった。私はまだ、未来に起こり得ることを思い、懐かしさを感じる体験をしたことはないが、将来そのように感じられる大人になることが楽しみでもあり、とても印象に残った。

ある寒い夜に、僕は彼女の過去を聞いた。内容は彼女がマンデリンを飲み始めたきっかけ、前に付き合っていた大学生にコーヒーについて教えてもらったこと、その人との別れについてだった。そして彼女は、これからもコーヒーを飲む時はマンデリンにしてほしいという頼みを残し、僕と別れた。物語は二十数年後に移る。今も、東京で暮らしている僕は、彼女の頼みを守っていた。そして、コーヒーを懐かしんでいた。私は二十年以上頼みを守り続ける僕のことを優しい人だと思った。しかし、私の感想を祖母をはじめ、家族に話すと、私の感じた思いとはまた違う感想が聞けた。僕は優しいだけではなく、自分の為に頼みを守っているのだというのだ。僕が彼女との思い出を、懐かしむために頼みを守っている側面もあるという考えを聞くと、なるほどと納得した。私は普通であれば、「ちょっと考えればわかること」がわかりにくいタイプなのだった。これから色々な体験をしていくだろうが、経験値を積み重ね、言葉の意図がもう少し分かるようになりたいと、この作品を通して感じた。

(重松 清『コーヒーもう一杯』)

第3位 「銀河鉄道の夜」を読んで

1年1組 鍋島 虎太郎

銀河鉄道の夜は人間関係と人間の欲の醜さについて宮沢賢治が伝えたかったに違いないと思う。決して銀河の

旅を楽しんだ話だけではない。ジョバンニの母は病気で、父は出航中で、学校に通いながら働きあまり遊べない社会的弱者である。一方のザネリは、何不自由なく伸う伸うと生きてきた社会的強者である。ザネリはジョバンニを見下し、嘲笑った。そこにはカムパネルラもいたのである。

カムパネルラはおそらくジョバンニの良き友であり、良き理解者であったと考える。友であるはずのカムパネルラは空気を恐れ、みじめになることを恐れザネリ達のからかいに交じり、ジョバンニを守ることをしなかった。

ここで人間関係と私欲の醜さが表れていると思う。みじめになりたくないのはカムパネルラの私欲であり、その行動は欺瞞である。「みんな」という魔力を恐れ、「空気」という圧力に押され、カムパネルラは気の毒に思うことしかできなかった。ただそれは正しくない。そのどこに正しさがあるのだろうか。

鉄道内でカムパネルラが言った「本当の幸い」は前の話に繋がる。カムパネルラは気の毒としか思わなかった。だがジョバンニを守り、本当の友情が欲しいと言う気持ちがあったのだ。それは空気に流されず、本当の幸いを手に入れたと思ったカムパネルラの純真な気持である。さらにカムパネルラは母が許してくれるだろうかと言ひ、自らとジョバンニを比較した。孤立しても一生懸命生きるジョバンニを見るジョバンニの母。空気に流され気の毒としか思えず楽しいと言ひ張るカムパネルラを見るカムパネルラの母。嘘のない君を見ている君の母は君を許すが、僕の嘘を僕の母が許すだろうか、とカムパネルラは言いたかったのだ。それは間違いなく、ジョバンニへの敬意である。どんなにみじめになろうと立ち続けるジョバンニへの敬意だ。

しかし、本当の幸いは手に入らず最後、カムパネルラは降車後川に溺れてしまう。

この本を読み、今もこういう空気に負け見て見ぬフリをする人が多いなと思った。いつかの日仲良くなっても人間はいとも簡単に裏切るのかもしれない。例えそれが間違っていると分かっている。空気に負け、みんなに負け、見て見ぬフリをし、気の毒に思うだけなのだろう。

最後に、人を信じるなかれ。これは宮沢賢治の教訓である。

(宮沢 賢治『銀河鉄道の夜』)

優秀作品 井上ひさし作『本の運命』を読んで

1年6組 田邊 孝允

最初にこの本を見つけるきっかけとなったのは図書館で別の本を探していたらこの本が目に入った。この本の題名『本の運命』というのに目がはなせなかった。そもそもこの本では何を伝えたいのか。なぜこのような題名にしたのか、それを単純に知りたくてこの本を選んだ。本の運命の意味、それはおそらく他の本にも関係することだと思う。自分は高専では文芸部に入っている。本とは切っても切れない縁だと思う。だからこそ本という存在に興味があった。本の運命を知るためには本の役割を知るしかない。本と人間の関わりについて知る必要がある。というのを軽く思いつつ、この本を読んでいった。この本には作者と本の関係、そして本の歴史、本の未来ともとれる内容があった。作者は「いま僕が、物を書いて生きているのも、子供の頃の本との出会いがあったからなのです。」と言っている。そこまでいうくらい本には何か不思議な力があるのか、と思ったが考えてみれば納得はできる。理解もできる。幼い頃から自分が読んできた本は自分の知識を作るし、表現力も豊かになる。それに人格をも形成すると思っている。幼い頃に本と多く関わってきたからこそその人がどういう性格か定まってくる。一冊の本が、読んだ人の考え方、生き方を変えることがあると思っている。現に、作者が書き続けているのはそんな本との出会いがあったという。自分は小さい頃はマンガという本を読んでいた。今もそうだが、小学校の先生は読書にマンガはだめといていた。小学校のときの読書感想文もマンガはいけなかった。中学校のときも。時にはマンガではなく、文字だらけの本も読めということか。マンガだって人格を形成するためのきっかけだ。それも文字だらけの書物よりわかりやすい。しかし、書物はマンガと違う魅力を持っている。それは

想像力。マンガと違い文字だけで絵がない。読み手が理解しにくいのだ。しかしそれこそが重要で本の内容を理解できるまで何度も読む、そこに意味があるのではないかと考える。本というのは不思議だ。無数の本がある図書館、その中の本一冊一冊に作者の思いが詰まっている。本の役割は、作者が言いたいことを読み手に伝えること。また、本は何年たとうと存在する。はるか昔に書かれた『枕草子』『羅生門』は教科書に載るくらい有名だ。この書物も作者の思いが詰まっている。何が言いたいのか。何を伝えたいのか。それは作者にしかわからないがその伝えたい内容に近づくことができる。作者が言わずもそれを知ることができる。それが何年後でも何十年後でも、本という作者の思いの結晶があれば、時を超えて、場所を変えて今この場所で知ることができる。本があれば。それこそが本の役割だと思う。「本は絶対になくならない」作者は断言している。情報化社会の今、本は電子ブックで簡単に見れる。簡単に様々な調べ物ができる。もう本自体を利用しない人もいるかもしれない。でも本というのは人間の歴史総体が真心をこめてつくり上げてきた最大の創造物、それが本。作者も同じようなことを言っている。はるか昔から人間の手によって生み出された本。それにより様々な芸術や文化が生まれた。本というのは書かれた時代を知る手がかりであり、社会を良い方向へと導く源になる。本は文化の原点であり未知の物を知る手がかりなのではないか。本は何年たとうと重宝されるもの。この本で作者が伝えたいのはやはり本という存在の大切さではないのか。人間と一緒に未来に伝えていく。本の運命なんて大げさだと作者は言っていたが人間の運命と同じくらい大切なのではないかと自分は思っている。

(井上 ひさし『本の運命』)

優秀作品 「人間失格」を読んで

1年1組 福田 有沙

私は、“読書感想文を書く”という目的がなかったら、この本を読んでいなかったと思います。この本のタイトルからして難しそうで、読んでみてもやっぱり難しく感じるどころが多々ありましたが、いろいろ自分の今までについて考えるいい機会だったと思います。

この本を読んで一番思ったことは、人間誰しも何かを隠して生きているんだなということです。この話の主人公「葉蔵」は小さい頃から自分についてすごく考えていて、他人が考えていることが分からないがゆえに、自分の考えていることが変わっているのではないかと、自分は変わっているのではないかと不安や恐怖に襲われていて、その不安や恐怖をごまかすために考えだされたのが道化だったといひます。私もたまに自分に自信がなくなったときなどに、すごく他人を気にしてしまって、自分を隠して他人に合わせることがあってすごく似ているなと感じました。他人を気にして恐怖を感じたことはありませんでしたが、すごく不安を感じたことはありました。

自分を偽り続けるのは疲れると思います。私は自分を偽ることがありましたが、偽りのない自分でいられる友達だったのでそれほど疲れませんでした。ですが、中学校に入るまで偽りのない自分でいられる人がいなかった「葉蔵」が自分を偽り続けたということは、「葉蔵」が襲われている不安や恐怖は相当大きなものだったんだなと感じました。

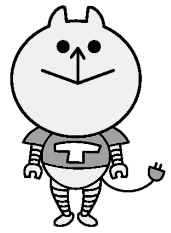
この本を読んで、他人を気にして自分が変わっているということは当たり前であって、他人と全く一緒ということはありえないのだから、その自分に自信をもっていいのだなと思いました。

なので、これからはできるだけ自分に自信をもって生きていきたいなと思いました。

(太宰 治『人間失格』)

ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム



本を借りる

📖 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。

📖 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。

Topics!



図書館ツイッターやってます。
@TsuyamaKosenLib



図書館にある本を探す

📖 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。

📖 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

📖 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

- 📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

- 📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

- 📖 全て図書館に所蔵しているわけではありませんが、多くの卒業研究が図書館奥の集密書架にありますので、探してみましょう。なお、一部を除き持出・複写不可です。

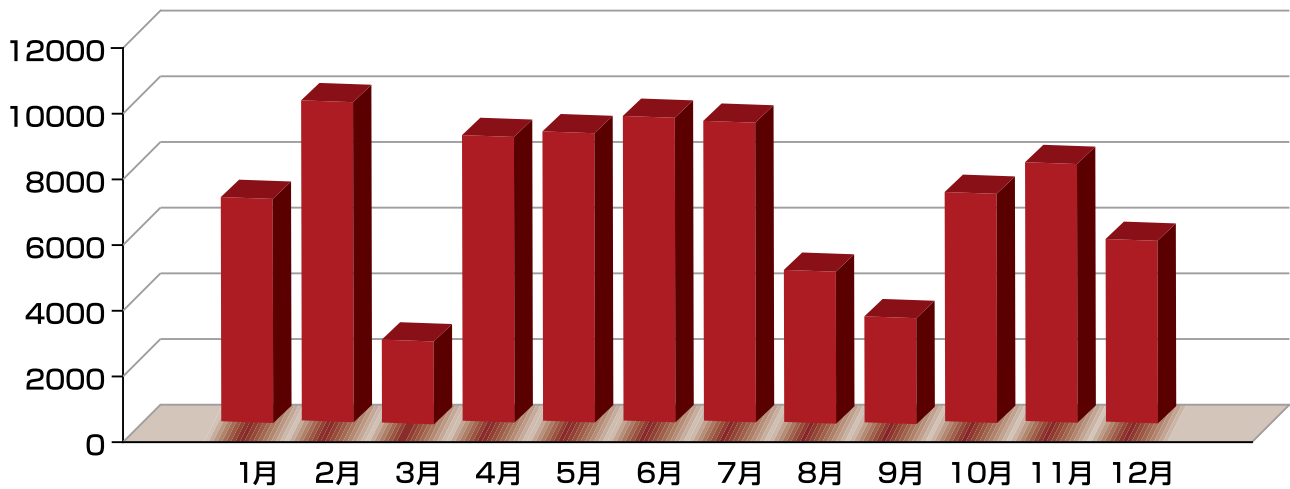
レポートを作成する

- 📖 PCは総合情報センターアカウントでログインして使用します。
- 📖 プリンタは両面印刷可能、カラー印刷はできません。節度ある利用を心掛け、安易な大量印刷は控えましょう。
- 📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。
- 📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

- 📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申込しましょう。

入館者数 2016



貸出ランキング 2016

No.	書 名	著 者	出版社
1	技術英語 中級－上級レベル	津山工業高等専門学校 技術英語テキスト編集委員会	電気書院
1	TOEICテスト 超リアル模試600問	花田徹也	コスモピア
3	TOEICテスト 新公式問題集	Educational Testing Service	国際ビジネス コミュニケーション協会
3	新TOEIC TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版
4	宇宙兄弟 27	小山宙哉	講談社

(期間：2016年1～12月)

編集後記



図書館報班に参加するのは今年で2回目ですが、なかなか慣れないもので、同じ班員や、先生方にたくさんご迷惑をおかけしたと思います。また、会議に参加できなかった時もあり、班長としてまだまだ未熟だったなあと感じました。しかし、たくさんの方々の協力のもと、本館報を完成させられたことは、大変嬉しく思っています。

私自身、本を読むことはすごく好きで、図書館を使わせてもらうことがよくありました。この館報には、本の紹介などがたくさんあり、新しい本の発掘にも、もってこいです。本が好きな方も、あまり好きでない方も、この館報を読んで、少しでも図書館が好きになってくれたら幸いです。少しでも気になったそのあなた、ぜひ図書館に足を運んでみてください。

最後になりましたが、本館報の作成に関わってくださった全ての方々にお礼を申し上げます。

(電気電子工学科4年 大嵩 竜一)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館